

根木内歴史公園 観察会

2017年4月15日(土)

参加者6名 西澤

ソメイヨシノの花びらが風に舞う。空は晴れているが、強い風が変に暖かく、にわか雨がくるかもしれないとの天気予報

ジャヤナギの下から観察開始。枯草がどけられた地面、一面にスギナとツクシが顔をだしていた。ヤガミスゲも順調に細い葉をだしている。民家との境に這っているミツバアケビが花をつけていた。濃い紫色の雌花、その下に房のように雄花が下がっている。雌花は「キクラゲみたい。」との声、たしかに見かけは似ている。触ってみると三枚の花びらの感触はハナ、キクラゲとは違っていた。今日は土曜日なのでザリガニ釣り子ども達が池に集まっている。水中にはミクリの若芽も顔を出していた。池の淵にはタネツケバナとともにカワヂシャが見られた。ベニシジミやキチョウ(モンキチョウ?)が飛ぶ。イヌシデの若葉はきれいな緑、オバナの房も下がっている。ソクスがしっかり茂っているあたりから湿地にかけてムラサキケマンの花が咲いている。湿地にはミゾソバ、セリの葉、花をつけたヘビイチゴが絨毯のように広がる。ヤエムグラもしっかり丈をのばしている。

ミズキの若葉にはツマグロヨコバイがついていた。新芽の樹液はおいしいのだろうか。

久しぶりにハコベの観察。柱頭を虫メガネで見る。葉が大きいからと思って見てみるが、3本のものほとんど。ウシハコベを捜したら、エゴノキの下あたりでやっと5本の柱頭を持ったウシハコベを見つけた。葉は大きく、少し波打った感じ。

ミノフスマがまとまって咲いている。同じハコベ属でもその様子はほっそりとして洗練された感じがする。花をつけたカワヂシャも発見。

今日の湿地で目立つのはタネツケバナ。これを味わった人がいて、クレソンの味だという。確かにほのかにクレソンの香り。オランダガラシ(クレソン)とタネツケバナは共にアブラナ科であり、味でも納得できた。味といえば、ツヤのある黄色い小花をつけているタガラシも味で確かめると、「から〜い」と声があがる。今日は目だけでなく味からの観察も実践。

紫系の花ではカキドオシ・ムラサキサギゴケが鮮やかだった。川側にはアリアケスミレの花もたくさんみられた。十月サクラは葉とともに花をつけている。春にもちゃんと咲くんですね。ハンノキの新緑をみながら進むと、山側崖の草が刈られたところにホウチャクソウがたくさん出ており、蕾をつけていた。他にナズナ・オランダミミナグサ・ヒメオドリコソウ・カラスノエンドウ・タチイヌノフグリ・オオイヌノフグリ・ハルジオン・キュウリグサ・ノジヤ・オランダガラシ・セイヨータンポポ・オニタビラコ・ケキツネノボタン・ユズリハ(木)・ニワトコ(木)など春の花を観察。

草むらではガサゴソとカナヘビが動き、バッタの類も見ると。確認はできなかったが、去年の4月の観察でも茶色のクビキリギスを見ており、今年は緑色の同種か?

広場ではシダレザクラ、ヤエザクラがソメイヨシノのあとを受け継ぐように咲いていた。生き物の世界にもすっかり春がきた。風が強いせい、アオジ・シジウカラ・コサギ・カワウの他、鳥の姿は少なかった。ウグイスのさえずりも聞こえなかったように思う。

* タガラシは有毒で、たくさん食べるとお腹が痛くなるので注意しましょう。



根木内歴史公園 観察会

2017年5月27日(土)

参加者6名 西澤

アシが人の背丈ほどに伸びて、サワサワと風に揺れている。手前のミクリのメバナは白く丸いボンボン。クリのようでもある。オバナは黄色い花粉を出しかけている。湿地は、カワヂシャの花、カズノグサ、アゼナルコ、ミコシガヤの季節がやってきた。

ヘビイチゴの赤い実、ドクダミの白い花(ガク)、背丈の伸びたミゾソバをかきわけて進む。カナムグラもしっかり伸びて引き抜くと茎のトゲが痛い。陽ざしは強いが木陰に入ると風がとてもさわやかで、緑の葉と大きく伸びた木々の梢を見上げながら良い季節を感じる。

シオカラトンボ、シジミチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、そしてジャコウアゲハもヒラヒラ舞っていた。アカガエルはどうしたのか？姿を見たのは一匹だけ。ウシガエルの声も聞かれなかった。カルガモもいない。日常ここで見かける鳥たちは、どこへでかけたのかしらなどと話ながら進む。木々の間からヒヨドリ、コゲラの声はする。時々澄んだトーンの鳴き声もきこえるが、残念ながら何の声かわからない。

畦道にトキワハゼの花が見られる。アゼ(湿地)ということでムラサキサギゴケとの違いは、どうかということになり両方を比べてみる。花の大きさ、色など確かに違う。葉はサギゴケのほうが丸く幅広。茎もサギゴケは匍枝を伸ばしている。しかし一つだけ見ているとどちらかと迷ってしまう。藤棚下の広場でイヌガラシをたくさん見る。しかしアシの湿地のなかで見かけたスカシタゴボウは一本のみだった。これもよく似た植物だ。

勢力を増しつつあるアシのなかでクサヨシの穂が風にゆれている姿が美しい。そしてフトイもアシに負けずに穂をだしていた。アシの小道を進んでいたら、なんとアオダイショウの死骸が見つかった。70cmくらいで、頭部をやられているようなので、サギかなにか鳥にでも攻撃されたのだろうか。アシをかきわけて進むのは大変だが、小道が作られていたので、アシ藪の中の植物も観察できるし、小道の風景もちよっと風情があってよかった。ただし長靴でなければ通れないけれど。イボクサも見られた。夏にはかわいらしい花が観察できそう。ヤガミスゲ、ツルマメなども見る。崖の下で見たヤブマメ、そしてここでツルマメ、これらもよく似た植物だ。

上の広場のムクゲの葉にカミキリムシを発見。あとで図鑑を見るとラミーカミキリらしい。小型だが青くてきれいなカミキリだ。広場の草むらにはハシボソガラスがとことこ歩いているし、ムクドリも草むらや木々の間に飛び込んでのどかな様子。アンテナにシジュウカラが止まってさえずっている。

草むらにはトキワハゼ、ニワゼキショウ、キュウリグサ、コメツブツメクサ、カタバミ、クローバー、イヌガラシなど。ヤマボウシがしろい花(ガク)をつけ、緑の葉桜に小さなサクランボが赤く実っていた。



ラミーカミキリ ササグモ(足が2本欠損?) ムシコブ(葉)



カタバミ イヌガラシ ニワゼキショウ

根木内歴史公園 観察会

2017. 6. 17 参加6名 西澤

梅雨の季節に入ったはずなのに今日も青空、その青空をオオタカラしきものが悠々と舞っていたのを見たラッキーな方の報告から観察会は始まった。

ジャヤナギの木に花が、いや、どうやら寄り添うようにたつネズミモチの花らしい。その下にはスギナにまじってワルナスビがたくさん見られる。池ではアシに負けじとミクリ、マコモが茂っている。ヒエガエリ、カズノコグサは茶色になっている。カワヂシャは水分を欲しそうな感じ。ソクズ、ヨウシュヤマゴボウはツボミをつけていた。山側湿地に入るとミゾソバの葉にハグロトンボが止まっている。光の加減で胴が青にも緑色にも見えてとてもきれい。よく見ていたらヒラヒラとたくさん舞っている。10頭以上いたのだろうか？根木内でハグロトンボを見るのは初めてか？しばらく皆で見とれていた。今年には特に多く見られるとの話でした。田んぼも水が少なくなっており、苗の間にアメリカアゼナ、イボクサ、セリ、タデ（ヒレタゴボウか）などを見る。アゼナルコ、ミコシガヤも見られたが先月より減っている。イ、コゴメイ、フトイ、ヤガミスゲは夏に向かって穂を出している。アシの間にはヤブマメがからみつき、コヒルガオの花もかわいらしい。いつの間にかヒメジヨンの花がハルジオンにかわって咲いていた。

アゲハ、キアゲハ、ベニシシジ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ジャノメチョウ、シオカラトンボ、オオシオカラなどの虫が気持ちよさそうに飛び交う。どれも色がとてもきれいだ。トンボ池にウシガエルの卵が沢山みられたが、あれが全部カエルになったらちょっとやっかいだ。アカガエルは姿を見せない。今年には少ないのかな。卵も少なかったように思う。湿地にアメリカネナシグサが広がっており、これも広がるとやっかいだということで抜き始めた。ポリ袋2つ分。でもまだ取り切れていない。

広場のムクゲの葉に先月もいたラミーカミキリ、今日はいくつも見られた。図鑑に載っている色は薄緑だが、ここのラミーくんは薄青色で最初はルリボシカミキリかと思ってしまった。ラミーは外来種、こうなると国産のルリボシを見てみたいものだ。ナツツバキの白い花がひっそりと咲いていた。ロウバイのガサガサした葉の間を探してみると実がついていた。二つずつ並んで小さなホヤのような形。太陽をあびたミズキの葉の上には実がびっしりついている。エゴノキは白くて小さな花が終り、可愛い実をたくさんぶらさげている。その中にバナナのような形もあり、エゴノネコアシフシという虫こぶで、虫こぶということで、切ってみる。中には小さなダニ（アブラムシ）のような虫がウジャウジャいた。これらの虫はこのあとどうなるのかな。オトシブミとも違う虫のような気がするけれど。葉うらに干からびそうなカタツムリがいたりして、時には雨も必要かなと感じた。来週あたりは雨になるだろう。



2017/07/22 根木内観察会 参加者 8 名



トウキョウヒメハンミョウ

見渡す限り、緑、みどり、すっかり真夏の根木内です。

ジャヤナギの下もかき分けないと入れない。オギ、スギナ、ヒルガオ、コセンダン、アレチギシギシ、ワルナスビ、ツユクサなどが入り乱れている。マコモは花、ミクリは実をつけた。

続いて葉の上にトウキョウヒメハンミョウを見つける。小さくて黒いジミな虫で、言われないと見逃してしまいそう。よく見ると土の上にも複数いる。

草の間にはクモの巣があり、ナガコガネグモだ。これも秋になって横縞模様ははっきりするとよくわかるが、まだまだ小さくて見逃してしまいそう。けれどしっかり糸をはって、エサを捉えていた。一人前に巣を揺らしている。次にゴミグモのマイホーム、これは細長い茶色のゴミ様の塊。真ん中ほどに、ちゃんと持ち主が鎮座していた。イオウイロハシリグモも見つかる。アシが長く糸をはらないクモだ。



ゴミグモ



桑の枝が白くなっている所にはアオバハゴロモの成虫と幼虫がいた。一緒にベッコウハゴロモの親子もおり、その幼虫は飾りものをユラユラさせて今にもサンバのカーニバルに参加しそうな様子。

←アオバハゴロモとベッコウハゴロモ

良く見ると、それぞれの幼虫と成虫が映っています。



シオカラトンボ、オオシオカラ、コシアキトンボ、ナツアカネ、先月に続いてハグロトンボ、真っ赤なショウジョウトンボ、アゲハ、キアゲハ、ヤマトシジミ、コムスジ、モンシロチョウなどが飛び交いニイニイゼミ、ミンミンゼミ、アブラゼミと虫たちもすっかり夏模様。

ムクドリ、ウグイスも健在。

全身真っ赤なショウジョウトンボ

先月の報告で「田んぼの中にはアメリカアゼナ」としたが、これは在来種のアゼナではどの指摘があった。田んぼの草取りをしながら鋸歯の有るなし、葉柄は？とじっくり見たそうで、今回参加してくれた植物が専門の学生さんにも見てもらった。確かに鋸歯なし、葉柄なしで、アゼナでしょう、ということになった。すると中に鋸歯のあるものが一本見つけられ？？？持ち帰って調べてもらうことにした。

いくつもの鋭い目があることで、私たちの観察も確かになっていく。今日は新しい人、久しぶりの人の参加もあり、虫にも目をむけることができ楽しい会になった。

他にマツカサススキ、ミコシガヤ、ヒメクグ、イ、コゴメイ、ヒメガマの穂、ヒメジョオン、ケキツネボタン、ソクズ、ヤブミョウガ、タカサブロー、イヌタデ、オオイヌタデ、オカトラノオの花など、タコノアシ、セリ、カントウヨメナは花をつけ始めたばかりの様子。

藤だなにはキジバトがひっそりと座っている。今年もここで子育てをするのかな。

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2017/8/19 実施)～

参加人数: 4名

緑のエネルギーが全開

あたり一面緑のエネルギー、明け方の大雨のせいか湿気もムンムン。空は曇っているから良いようなものの、これで太陽が照りだしたら、もうお手上げになりそうな空気の朝。

アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシとセミの合唱が賑やかなせいか、鳥の声はちっとも聞こえない。

ジャヤナギの下ではアメリカセンダングサ、ワルナスビなどに交じってアオミズが背丈をのぼしている。マコモのオバナとメバナをくらべて観察。触ると雄小穂からは花粉がとぶ。雌小穂の白い羽毛状の柱頭は美しい。マコモは今最盛期といった感じ。ジュズダマも実を結んでいる。そして実の先に雄の小穂が垂れ下がっているのがみられた。



キレハノブドウ。花にはマメコガネが。



カラスウリの蕾

ソクズ、ヤブミョウガと見ていくと、湿地の際にノブドウが見られ、実生のアカメガシワにからみついている。葉の切れ込みは深くキレハノブドウか。ヨウシュヤマゴボウも実をつけたばかりでその姿はまだまだやさしく感じられた。カラスウリの葉の様子も緑が濃くて良い。「蕾の姿がいいなあ」とつぶやく人も。昼間なので、レースを広げた美しい姿を見ることはできない。この蕾は今晚デビューするのだろうか。

イノコズチの茂み中にセミの抜け殻がたくさん残っているのも併せて、夜の景色をそっと思い浮かべてみよう。

稲が穂を出し、水面をアオウキクサが覆っている。畦にはアゼガヤツリ、イボクサ、ヒメジソなど。ヒメサルダヒコもひっそりと。

シロバナサクラタデの茂みにツルマメが絡みついている葉の上にオジロアシナガゾウムシが見つかった。長い鼻と白黒模様が特徴的。他にコブナグサ、ホタルイ、タコノアシ、マツカサススキ、ケイヌビエ、ヘラオモダカ、ミゾソバ、セリなど。ベッコウハゴロモやアオバハゴロモの成虫も茎に留まっている。先月の幼虫が大人になったのかな。



オジロアシナガゾウムシ

草むらは、咲きはじめてカントウヨメナ、ピンク色が美しいコヒルガオ、カヤツリグサ、ツユクサ。オオイヌタデの花は白が多いが少し赤みをおびたものもあった。オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴも見られる。カマキリは樹上にいるハラビロカマキリをいくつか見たが、なぜか草原性のオオカマキリらしきものも今日は木の枝にとどまっている。



タコノアシ



ツルマメ

アゲハチョウ、アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、木陰にはサトキマダラヒカゲなどを見る。賑やかな声のウシガエルは水の中をス〜イと泳いでいた。意外にスピードがあり、あっという間に姿をけした。

上の広場では、トキワハゼに交じってウリクサが花をつけていた。小さくて目立たない草だが、蒸し暑さの中で一時の清涼を感じさせてくれた。

夏はなんといってもトンボでしょう。シオカラやオオシオカラがスイスイ。先月より数は減ったがハグロトンボ、真っ赤の衣装のショウジョウトンボ、ノシメトンボ、そしてワオ〜、ギンヤンマ、オニヤンマも飛んでいた。草むらにはお尻がブルーのイトトンボも、アオモンイトトンボか。



ウリクサ

9月の湿地の観察会は、、、

9月9日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2017/9/9 実施)～

参加人数: 7名

秋がきた!

満開のアベリアの花にナミアゲハが2頭、小型だが模様がとても鮮やかだ。他にキタテハ、イチモンジセセリ、アカホシゴマダラ、ヤマトシジミなどが集まっていた。園路を進むと土の上に、黒いチョウが留まっている。ナガサキアゲハか。水を飲むならもって池のそばのほうがたっぷり飲めるだろうに、何をしているのか?



地面の上にとまったナガサキアゲハ



カワラスガナ

同じく通路のコンクリート板の脇にカヤツリグサの仲間がいくつか顔をだしている。人が歩く所なので、これから先増えていくかどうかはわからないが、コンクリート板にめげず伸びている。草のエネルギー、頼もしさを感じる。その場ではこれはヌマガヤツリではないか?と話をしていたが、後で、これはカワラスガナだと訂正がはいった。なるほど。

湿地の中のアシの茂みが少し刈り取られた場所で、アカバナとヒメサルダヒコがそれぞれ小さな花をつけているのが数本見つかった。これらは昨年見つけた場所から離れており、「歩いた」わけではないが勝手に移動している。草それぞれに事情があるのだろうが継続して観察していると、思わぬ発見に出会うこともあり、楽しみの一つになっている。



シロバナサクラタデを訪れたベニシジミ



可憐な花をつけるポントクタデ

田んぼの稲は重たく実って、秋がきた!ソクズ、ジュズダマ、ヤブミョウガ、アメリカイヌホウズキなども花とともにしっかり実がついていた。キレハノブドウにも実。咲きはじめてたシロバナサクラタデに負けじとツルマメも花を咲かせている。その中に2, 3本ポントクタデが可憐な様子で咲いていた。ポントクはシロバナサクラタデに負けてしまいそう?イヤイヤ別の場所にありました。ここではまだ花は咲いていなかったけれど。そばには黄色い小花のチョウジタデも見られた。

畦にはハシカグサの小さな白い花も咲いていた。コブナグサの穂はまだ出ていないが、しっかりと丈をのぼし秋の風に穂を揺らす準備をしているようす。オオイヌタデも白い花のものと赤いもののがそれぞれ以前より増えたようだ。タカサブロウの花は今が盛り、ミゾソバはピンクの花がチラホラ咲き始めた。川側にはキンエノコログサが沢山見られ、ヒメジソも花はまだだが、びっしりと広がっていた。



目立たないけどしっかり咲いているハシカグサ



樹木のアカメガシワは重そうな実をつけていた。カラスザンショウ、ヌルデには、白っぽい花が見られた。遠くからでもよくわかる。コブシは葉の間にビロード状の花芽がついていた。もう春の準備か、早いなあ。

←重たそうなアカメガシワの実

山側の藪下にはオオカマキリ、ハラビロカマキリがそれぞれ待機してエモノを狙っている。アッ！オオカマキリが獲物を取りそこねた。命拾いしたのは、シロヘリクチブトカメムシだ。カメムシの仲間は図鑑を見るとびっくりするほどたくさんいるのに驚く。

オオカマキリ→



根木内観察会で初記録のシマヘビ

草むらではオンブバッタやショウリョウバッタ、ツチイナゴ、クビキリギスなどが飛び交っていた。そしてへびもお出ましになった。1匹、アオダイショウらしきものは草むらにすぐ消えたが、もう1匹は草の上からこちらに顔を向けてしっとうしている。衣装は赤と黒の縞模様。根木内観察会では始めて登場のシマヘビだ。

ハンノキ島のあたりではシオカラトンボが乱舞しており、ショウジョウトンボも先月に続いて確認できた。ギンヤンマも2頭が繋がってとんで、アシの間に消えた。

今日は3歳の文ちゃんも参加して、お父さんと一緒に虫取りをした。



シオカラトンボより色が濃いオオシオカラトンボ



産卵中のギンヤンマ



田んぼの稲は重たく実って、秋がきた！

10月の湿地の観察会は、、、

10月28日(土)

9:30 駐車場集合 (小雨決行) です。